

原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2025/09/08号

マーケットエッジ株式会社 小菅努



【現状確認】



OPECプラスの供給増加観測で急落

NY原油先物相場は、1バレル=66.03ドルまで上昇した後、61ドル台後半まで急反落する荒れた展開になった。週前半は米財務省がイラン産原油に対する追加制裁を発表したことを受けて、供給不安を織り込む形で8月6日以来の高値を更新する展開になった。しかし、その後は石油輸出国機構（OPEC）プラスが9月7日の会合で減産縮小をさらに進めることが合意されるとの観測報道が流れ、需給緩和リスクを織り込む形で急落した。北半球ではドライブシーズンが終了したが、このタイミングでOPECプラスが供給量をさらに増やすリスクが警戒された。

OPECプラスは、全加盟国による日量200万バレルの協調減産に加えて、有志国による日量165万バレルと220万バレルの3種類の減産政策を展開している。このうち、220万バレルについては4月以降の段階的な縮小で9月に終了する予定だが、さらに165万バレルについても段階的な縮小に着手する可能性が警戒された。

米エネルギー情報局（EIA）発表の米石油在庫（8月29日時点）は、原油が前週比242万バレル増、ガソリンが380万バレル減、石油精製品が168万バレル増となった。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

【展望】

需給緩和見通しで60ドル割れも、OPECプラスの動向に依存する

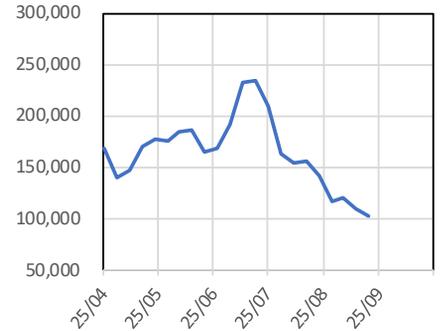
需給緩和見通しから戻り売り優勢の地合が続く見通し。週前半は、9月7日の石油輸出国機構（OPEC）プラスの会合の結果が注目される。マーケットは減産縮小に着手するとの見方を織り込んでいるが、実際に日量165万バレルの減産をハイペースで終了させるとの見方が強まると、需給緩和見通しから60ドルの節目を割り込む可能性が高まる。ドライブシーズン終了で需要端境期に移行しているが、このタイミングで供給量をさらに増やす動きは、原油安に直結する見通し。

ただし、かりにOPECプラスが減産縮小を見送った場合には、前週後半の急落地合の反動から、一気に65ドル水準まで切り返すリスクは想定したい。OPECプラスが減産縮小にどの程度の本気度を示すのかに強く依存する展開になる。

突発的な供給障害の発生がなければ、OPECプラスが追加の減産縮小を合意しなくても、供給過剰リスクの高まりから戻り売り優勢の地合が続く見通し。こうした中で、OPECプラスが市場シェア維持のための取り組みを強化するか否かで、今後の原油相場の値下がりペースが影響を受けることになる。9月11日に国際エネルギー機関（IEA）とOPECの月報が発表されることにも注意が必要。

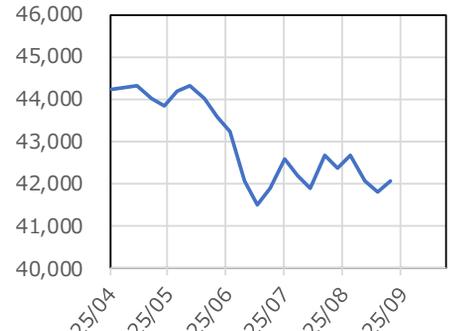
一方、供給リスクも高めの状態が続くことには注意が必要。国連ではイランが核合意に違反したとして、国連制裁復活の議論が活発化している。イラン産原油の供給不安がさらに高まると、安値修正が促される可能性がある。また、ウクライナ和平の協議が難航していることで、米欧がロシア産石油に対する制裁に踏み切る可能性もある。戻り売り優勢の地合は崩れない見通しだが、瞬間的な反発リスクは維持される。

(枚) NY原油先物 大口投機筋ネット建玉



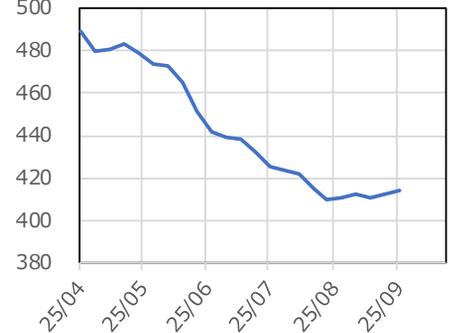
(出所) CFTCよりマーケットエッジ作成

(万バレル) 米原油在庫



(出所) EIAよりマーケットエッジ作成

(基) 米石油リグ稼働数



(出所) Baker Hughesよりマーケットエッジ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読み下さい。

【ディスクレーマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所がマーケットエッジ株式会社から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、マーケットエッジ株式会社に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、マーケットエッジ株式会社（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 マーケットエッジ株式会社（Marketedge Co., Ltd.）

【所在地】 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-18-1（古川ビル4F）

【URL】 <https://www.marketedge.co.jp/>

【電話】 TEL : 03-6661-9498 【E-mail】 info@marketedge.co.jp

小菅努（こすげ・つとむ）プロフィール

1976年千葉県生まれ。筑波大学社会学類卒。商品先物会社の営業本部、ニューヨーク事務所駐在、調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社を設立、代表に就任。金融機関、商社、事業法人、メディア向けのレポート配信、講演、執筆などを行う。

最新情報は
ツイッターで

